

支部例会会長からのお礼のご挨拶

2018年5月19日、岐阜大学の共催のもと、岐阜大学講堂及びアカデミックコアにて「第82回日本生化学会中部支部例会・シンポジウム」を開催致しました。多くの方々に足を運んで頂き、参加者241名（事前参加登録者201名）という大盛況の例会・シンポジウムとなりました。

今回のシンポジウムでは、「ゲノム編集が切り拓く未来の生化学」と題して、山本卓先生（広島大学大学院 理学研究科）、濡木理先生（東京大学大学院 理学系研究科）、斎藤博英先生（京都大学 iPS 細胞研究所 未来生命科学開拓部門）、畑中出穂先生（群馬大学生体調節研究所 ゲノムリソース分野）をお招き致しました。ゲノム編集に関わる各々の研究領域を世界的に牽引される著名な研究者です。ご多忙中にも関わらず、4人の先生が揃って岐阜にお越しい頂いたことで、予想を遥かに上回る多くの参加者があったものと感謝いたします。

山本卓先生には「ゲノム編集の基本原則と様々な分野での可能性」、濡木理先生には「CRISPER-Cas の分子機構の構造基盤と医療応用を目指した革新的ゲノム編集」、斎藤博英先生には、「人工 RNA システムによるゲノム編集と細胞運命の制御」、畑中出穂先生には「ゲノム編集とエピゲノム編集」というタイトルで、それぞれ50分間、ご講演と質問に答えて頂きました。それぞれの先生からご研究の概念や研究成果についての大変貴重なお話を基礎から伺うことができました。会場からも質問があり、活発な議論がなされました。

ポスター発表は76演題ありました。シンポジウム終了後に、全発表者による1分間ポスタープレビューをお願いしました。その後、各自のポスターを前にして、多くの学生および若手研究者にベテラン研究者も加わり、熱気ある討論が繰り広げられました。ポスター発表では、生化学会会員とシンポジストの先生に審査をお願いし、投票によって、郷詩織さん（名古屋大学大学院）、本田諒さん（岐阜大学大学院）、後藤未沙紀さん（岐阜大学大学院）、東希美さん（岐阜薬科大学）、稲垣唯さん（名古屋大学大学院）、野々部修平さん（信州大学大学院）、倉永祐希（岐阜大学大学院）を選出し、この7名の発表者に中部支部奨励賞が授与されました。

総会におきましては、支部の平成29年度の活動報告、会計報告ならびに次期支部幹事の投票結果をご承認頂きました。次に、次期支部例会会長候補として人見清隆先生（名古屋大学大学院創薬科学研究科）を推薦し、ご承認頂きました。また、中部支部長賞の設立に関してもご承認を頂きました。最後に、ポスター奨励賞授賞式を行い上記7名の成果を称えるとともに、研究の一層の進展を祈念しました。最後に、人見先生から来年度の例会・シンポジウムのご案内をいただき、全スケジュールを終了致しました。

協賛企業の皆様、支部幹事の皆様、ならびに岐阜大学からの多大なご協力によって、本会を無事、成功裏に終えることができました。この場をお借りして、改めて御礼申し上げます。また、日本生化学会中部支部例会・シンポジウムにご参加いただきました多くの方々に感謝申し上げます。

皆様のご研究の益々のご発展を祈念致しまして、お礼のご挨拶とさせていただきます。

第82回日本生化学会中部支部例会会長
愛知工業大学工学部 北出 幸夫



